

## 引用・パラフレーズの例

### インライン引用とブロック引用

人口学者の大淵寛は、1960年代の高度経済成長の時代から1970年代の前半まで、男性の賃金が伸びたため、働く女性は減ってきていたと主張する。「女子の労働力率は高度成長期に下降し、低成長期に上昇した。〔……〕高成長期には夫の所得が順調に伸びたため、妻は労働市場から離れて家庭に戻った」[1:22-23]。家族社会学者の山田昌弘も同様の主張を展開しているが、さらに(社会学者らしく)「中流階層」のライフスタイルと関連づけてつぎのように論じている。

ブロック引用は、前後に空行を入れ、左端を字下げ(indent)する。右端は字下げしてもしなくてもよい。また文字を1段小さくしてもよい。

戦後一番初めに西欧型近代家族を受容したのは、文化階層(つまり学歴)が高く、経済階層が中程度の人々である。学歴が高く、西欧文化を受容する意欲があり、かつ、女中を雇う余裕はないが妻を専業主婦にしておけるくらいの経済力がある都市のホワイトカラーや専門職層が、「夫 外での仕事、妻 家で家事労働」という家族形態をとり、少数の子どもを妻の手で育てるようになる。

——山田昌弘 [2:191-192]

### 引用者による訂正・補足・強調

就職後出産・子育てなどによる就業中断をせず定年退職まで勤務した場合、〔……〕その〔賃金の〕総額は約2億1,900万円となる。これに退職金の約1,700万円を含めた約2億3,600万円を生涯で得ることになる。しかし、結婚後第1子出産時に退職し、子育てが一段落した後に再就職するケースでは、再就職後は賃金が勤続年数が小さい〔ママ〕ことにより低くなり、上昇カーブも中断なしの場合の賃金カーブに比べなだらかになる。

——経済企画庁『平成9年版 国民生活白書』[3:51-52]。

原文にあった強調文字や傍点を残す場合は「強調は原文」などと注記する。

人に附属する日本国籍が誕生する前に、日の丸という船籍を示す対外的なナショナリティが生まれた。このことはかなり重要なことである。

——嘉本伊都子 [4:20] (強調は引用者)

## パラフレーズ

高度経済成長期前期の電気洗濯機の普及は、洗濯のやりかたを一変させた。有斐閣『家族データブック』[5:33]によると、日本ではじめて電気洗濯機が発売されたのは1953年のことで、価格は2万8500円であったという。

パラフレーズの範囲がはっきりするよう文章を工夫する。文または段落の区切りと一致させるのが基本である。

安田 [6:59] は、階層間の移動——たとえば農業層出身者が農業以外の階層に移動する——を3類型にわけて整理した。社会移動にはその原因となるメカニズムによって「強制移動」「純粹移動」の2種類があり、それらの総和が事実としての社会移動量である「事実移動」になると考えたのだ。

## 文献

- [1] 大淵 寛 (1995) 「女性のライフサイクルとM字型就業」人口・世帯研究会；監修＝大淵 寛『女性のライフサイクルと就業行動』大蔵省印刷局、p. 13-35、ISBN 4-17-214900-6。
- [2] 山田 昌弘 (1994) 『近代家族のゆくえ：家族と愛情のパラドックス』新曜社。
- [3] 経済企画庁 (1997) 『平成9年版 国民生活白書：働く女性：新しい社会システムを求めて』大蔵省印刷局、ISBN 4-17-190472-2。
- [4] 嘉本 伊都子 (2001) 『国際結婚の誕生：文明国日本への道』新曜社、ISBN 4-7885-0760-9。
- [5] 久武 綾子 + 戒能 民江 + 若尾 典子 + 吉田 あけみ (1997) 『家族データブック：年表と図表で読む戦後家族1945～96』有斐閣、ISBN 4-641-07592-1。
- [6] 安田 三郎 (1971) 『社会移動の研究』東京大学出版会、ISBN 4-13-050035-X。